

認知症疾患医療連携研修会 開催報告

日時：平成 27 年 10 月 22 日（木）18：00～19：30

場所：北見赤十字病院 北館 3 階 大会議室

1. 講演『認知症患者の介護を通して～関係者の方に知っておいてほしいこと～』
北見市認知症の人と家族の会（よりそいの会） 伊藤美代子氏
2. グループディスカッション 講演の感想、実践の振り返り、気づき、困難事例等



上記内容にて研修会を開催致しました。当日は平日にも関わらず、医療保健福祉従事に従事する関係者 55 名の参加がありました。

講師の伊藤美代子氏から、認知症者を介護する家族の立場からケアマネージャーに伝えたい事、サービス提供事業所等に望む改善点等の具体的なお話をうかがうことができました。

具体的には、ご自身の経験から、日々の介護負担（精神的負担含め）やケアマネージャーと遠方に住む家族との緊密なコミュニケーションの必要性。また、支援者に遠慮をしてしまう家族の気持ちや、認知症状が進む親を受け入れていく葛藤等、支援者にはそれらを理解して欲しいと、家族の気持ちを語っていただきました。

最後に会場から、「大変な介護の中での喜び、嬉しかった事がありますか？」との問いに対して、「認知症が進行して、普段は娘の事を忘れていた母が 1 年にほんの数回、私の事を思い出し、心が通じ合う瞬間は本当に嬉しかった。」とのエピソードを話してくれました。また、「介護を通じてよりそいの会のメンバーと出会う事ができ、本当に救われた。そのような出会いも母のおかげと今は感謝している。」と笑顔で話されていました。

グループディスカッションでは、講演の感想、実践の振り返り、気づき、困難事例等について、活発な意見交換がなされました。

あるグループからは、「異性介護の問題提起、誕生会の年齢を記入したプレゼント等、ハッとした」、「支援者が忘れがちな点を再認識した」等の感想があがっていました。

意見交換するうちに、ケアマネージャーや介護現場での葛藤、様々な対象者・家族との関わりの難しさや、反面、対象者に合わせて細やかな配慮や工夫も実践しているとの声もありました。「支援者側の常識が対象者や家族の常識とは限らない事を常に心に留め置きたい」等の気づきが各グループから報告されました。

また、参加者から「困難事例を検討する場が欲しい」等、今後も研修会を希望する声が多数あり、継続して企画していきたいと考えています。

*参加者の感想より

- ・認知症疾患をもつ利用者のご家族の生の声を聞けて良かった。医療福祉業界に対する厳しい意見も参考になった。
- ・講師の伊藤さんのお話、心にしみ入りました。
- ・グループディスカッションでは、多職種の意見が聞けて参考になった。
- ・今後もグループワークや事例検討を組み込んだ演習形式の研修会希望。
- ・当事者や家族に寄り添って話を聞いてみることから実践していこうと思う。

以上

(事務局 伊藤記)